

滿洲國立滿洲工鑛技術員養成所概況

石 光 勝*

東亞の最新情勢に即應す可く我が工鑛業界に於ても益々
 が充實發展を期せざる可からざるは識者の均しく認む
 所なるも現在其の第1要素たる技術員に於て既に漸く
 不足を生ずる状態に在るを以て是等技術員の養成は頗る
 急を要する問題たるは言を俟たざる次第なり。而して
 之を應急的對策として夫々各部門會社等に於ては既に短
 期養成所の如き講習施設を設立せしもの數多有り。

我が滿洲國政府に於ても 國內産業開發計畫遂行の完璧
 を期する爲め自ら是等工鑛業に關する 高級技術員の養成
 を行ひ又將來に於ける 前記技術員の自給自足をも考慮し
 之に勅令を以て康德5年1月1日日本養成所を 創立するに
 至りたるものなり。

即ち本年は取敢えず 新京城後路康平街舊交通部廳舎を
 校舎として2月7日開所式を行ひ 滿洲學生を收容し豫
 備教育を開始し又4月4日、日采其他學生を 入所せしめ
 之を正規教導に移れり。

而して學年は4月1日に始り翌年3月31日を以て 終り
 本所の修業年限は2箇年とし其の間日本内地に 於ける高
 等工業卒業程度の學術を修得せしむるの 外特に所生の訓
 育に重點を置き學生は 全部寄宿舎に收容し教導用語は日
 本語を以てし滿洲建國の眞意を認識せしめ 志氣旺盛にし
 て責任を重んじ犠牲的服從觀念に富み 卓越せる確固不動
 の信念を有する有爲の 高級技術員たらしめんとするもの
 として政府は學費の補助とし 月給20圓乃至30圓を支給し
 卒業生には 滿洲國高等文官(技術)受驗資格を附與し全部
 政府に於て政府各機關特殊會社等に 斡旋就職せしむると
 共に學生は其の卒業證書受得の日より 學費を支給せられ
 たる期間の一倍半に相當する期間民生部大臣の 指定に従
 ひ服務するの義務を有するものなり。

本所入學は次の如き資格を有する 者の内より差衡され
 六年度入學者差衡方針は目下研究中なるも 大體に於て
 自身學校長の推薦を基とし 體格検査筆記試驗及口答試問
 に依るものの如く遅くも8月下旬には 確定する豫定にし
 日人は明年1月滿人は 本年10月に試験實施さるる等な
 り。

入 所 資 格

1. 國民高等學校卒業者
2. 高級中學校第1學年を修了せる男子
3. 高級師範學校第1學年を修了せる男子
4. 民生部大臣の指定する 國民高等學校に類する教育
施設を卒業したる者
5. 國民高等學校卒業程度學力檢定に 合格したる者

6. 外國に於て高等専門程度の 教育施設に入學する資
格を有する男子

本養成所は鑛山、電氣、機械、應用化學、土木、建築
 の6科に分かれ5年度收容人員は第1學年150名(6年度
 は増員の豫定)にして其の内譯を示せば次の如し。

	日人	滿鮮其他	計
鑛 山 科	32	8	40
電 氣 科	17	3	20
機 械 科	32	8	40
應用化學科	12	3	15
土 木 科	21	4	25
建 築 科	7	3	10
合 計	121	29	150

次に土木科に於ける教程表を掲げ 參考に供せんとす而
 して授業時間は毎週42時間とし 各學年共前期後期の中間
 に於て約1箇月間所外實習を行ふものとす。

土木科教程表

學 科 目	第1學年		第2學年		備 考
	前期	後期	前期	後期	
國 民 道 德	1	1	1	1	國語は課外に 課す
國 語	(3)	(3)	(3)	—	
體 育	2	2	2	2	
數 學	8	4	—	—	
建 設 材 料	2	1	—	—	
應 用 力 學	4	7	—	—	
測 量	5	3	—	—	
鐵筋コンクリート	—	2	3	—	
施 工 法	3	3	1	1	
設 計 製 圖	6	10	5	10	
實 驗	3	3	3	3	
實 習	8	4	6	2	
鐵 道 工 學	—	—	3	3	
道 路 工 學	—	2	2	—	
橋 梁 工 學	—	—	5	7	
都 邑 計 畫	—	—	1	1	
上 下 水 道	—	—	3	4	
河 川 工 學	—	—	4	6	
水 力	—	—	1	5	
土 木 法 規	—	—	—	2	
土 木 地 質	—	—	1	1	
電 氣 工 學 大 意	—	—	2	2	
機 械 工 學	—	—	2	2	
建 築 工 學	—	—	1	1	
計	42	42	42	42	